様々な文化活動に対応する「梁山泊」を市民と一緒につくり、賑わいと回遊性を生み出すことで街全体を活性化させます

賑わいと回遊性を生みだし市街地を活性化するイメージ

特定テーマ1　大手前地区が佐伯市の「まちの顔」として、将来にわたり佐伯の資源を活用しながら市全体の活性化に寄与するための考え方

基本計画の考え方を十分に理解し、文化活動活性化と賑わい創出を実現

提示された４つの計画の方向性を具体化する方策

・大手前開発基本計画の理念を十分に理解した上で、それらを実現するため、具体的な 12 の方策を提案します。
・一度計画が白紙化した経緯があるという特殊状況を十分に理解し、市民合意形成をきちんと組み入れた計画プロセスを踏んで、業務を進めます。

佐伯のコンテクストを徹底調査し、計画に反映

・既に現地調査を何度も行い、既存施設等へのヒアリングを通じて得られた歴史・文化・景観への理解を計画に活かします。
・市全体の上位計画にも配慮しながら、文化振興、地域商業活性化、地域コミュニティ活性化、観光振興、市民協働など幅広い視点からの計画検討を行います。

1．様々な人々が交流する拠点

A 内部を公園のようにつくる
誰もが気軽に立ち寄ることが出来、常に人で賑わう施設をつくります。

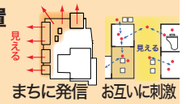
B 共用部に居場所を多くつくる
人々の居場所をつくり、常に人で賑わう施設をつくります。

C 市民参画の愛される施設づくり
市民合意形成のサポートをきちんと行い、本当に市民に求められる施設を実現します。

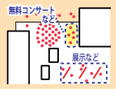
2．文化・芸術・情報発信の拠点

D あらゆる活動に対応する多機能なホール
ホール公演の無い日も、多目的に利用できることで利用率をアップさせます。

E 活動が見えるつくりと機能配置
活動が見えることで市民同士が触発され、文化活動を活性化させます。



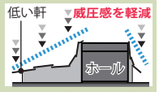
F 発表の場となる共用部広場
施設を訪れる楽しみと、発表の機会をつくり、文化に触れるきっかけを増やします。



3．歴史とにぎわいのあるまち

G 既存ストックを活用する動線計画
城山の歴史景観や、船頭町・仲町商店街等を含めた回遊動線を強化します。

H 歴史景観・環境との調和
低い軒や歴史に配慮した外観を採用し、景観・環境との調和を図ります。

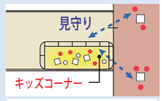


I まち全体を巻き込んだイベント展開
市民や商店街を巻き込むイベントを展開することで、まち全体で盛り上げます。

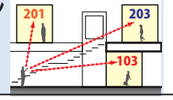
4．誰もが安全で安心できるまち

J インフラ途絶時も機能する
災害時の一時避難所として最低限の機能が使えるような設備とします。

K 子育て世代に配慮した設備の充実
子育て世代が利用しやすいよう、周りから見守れるつくりとし、キッズコーナーや授乳室を充実させます。



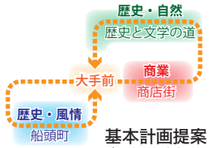
L わかりやすく使いやすいユニバーサルデザイン
サインの充実だけでなく、見通しの良さなど説明なしに分かりやすい機能構成とします。



佐伯の深い歴史・文化と豊かな景観という既存ストックを活用する、まちの回遊動線を創出

G 城山や船頭町、仲町商店街との連携を重視

・本計画区域の中央の道路は、船頭町、仲町商店街へと連続する重要な道です。
・商業エリア側に活動を表出させ、商店街のような賑わいと活気のある通りを形成します。
・これにより、市の回遊動線を補強して、市街地全体の活性化につなげます。



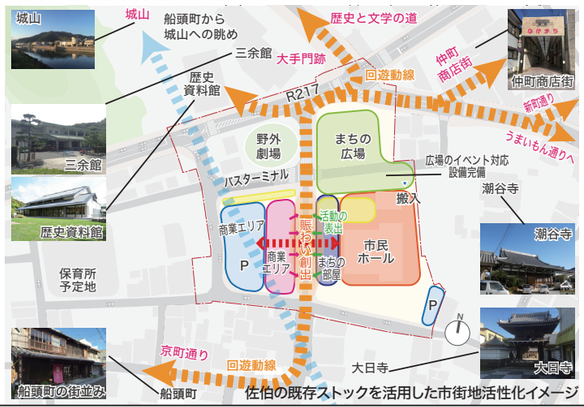
基本計画提案書 P24 より

I 市民や街全体を巻き込み盛り上げる

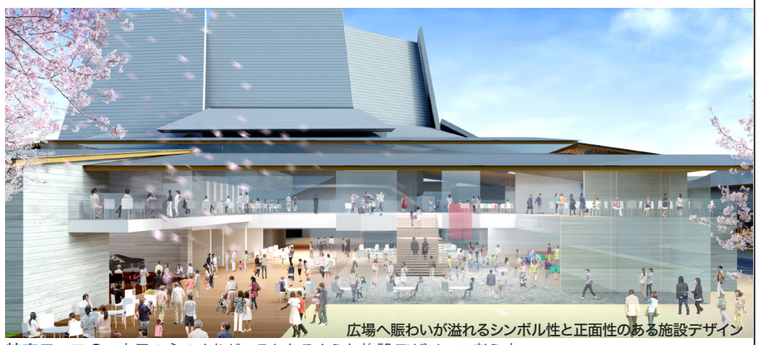
・歩いて楽しい街にする為、市街地回遊路に街路樹、バナー、ベンチ等の整備を提案します。
・既存イベントとの連携に配慮します。(春まつり、菊姫行列、神武の火祭り、B-1 グランプリ、番匠 YOSAKOI 他)
・市民参画により愛着がわく手法を提案します。

まちを彩る共通バナー

公募市民による署名入りレンガ



佐伯の既存ストックを活用した市街地活性化イメージ

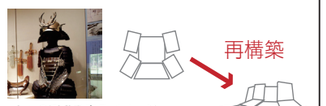

広場へ賑わいが溢れるシンボル性と正面性のある施設デザイン

特定テーマ３　市民の心のよりどころとなるような施設デザインの考え方

歴史・景観との調和に配慮した、新しい佐伯市の “まちの顔”

H 「勾配屋根」と「甲冑」の要素を再構築

・船頭町等に今も残る伝統的な「勾配屋根」の軒の連なりと、佐伯城･大手前に相応しい武士の「甲冑」の要素を外観のモチーフとして採り入れ、屋根形状として再構築します。



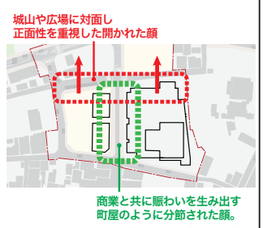
人々の活動を守るイメージ

H 低い軒により歴史景観に配慮

・軒を低くし、周辺施設への圧迫感を軽減します。
・商業関係者と協議し、景観の一体感に配慮します。
・心のよりどころとなる城山への眺めを守ります。

低い軒が連なるイメージ

軒を低くし城山の景観を守る施設デザイン



施設デザインの全体構成

特定テーマ4　市民が愛し日常的に利用したくなるよう市民と協働で施設を設計するための方策と体制

市民との意見交換を重視し、施設計画から運営計画まで、「みんなで考える」体制をつくり、各工程を円滑にサポート

C 市民との意見交換を徹底します

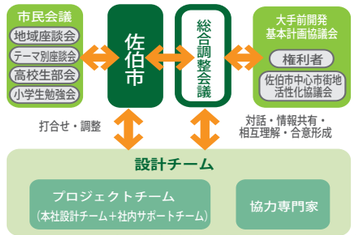
・計画白紙化の特殊な経緯を踏まえ、計画の要所で市民合意形成を図りながら、商業施設・市民ホール・広場整備が1つの目的に融合した事業として醸成するよう努めます。
・市民協働を重視し、必要に応じて、補足のワークショップ開催も検討します。
・年間利用計画の策定もサポートします。

C 市民会議メンバーと協議会メンバーの総合調整会議をサポート

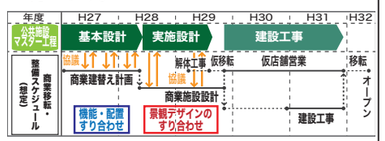
・市ご担当者様とご相談の上で、市民会議メンバーの方々のご意見と、協議会メンバーの方々のご意見を交換し合う総合調整会議を設計チームでサポートします。

商業施設計画との連携・情報共有

・商業施設の整備スケジュールとの調整や、機能配置、景観デザインについて関係者との定期的な協議により情報共有を図り、連携利用や相乗効果を高めるサポートを行います。



市民合意形成を円滑に行うサポート体制



商業施設と連携した事業スケジュール